

## 1.2. 近江八幡「世界の中心で学ぶ～子供たちの夏休み寺子屋教室」プロジェクト

(応募チーム：立命館大学＋近江八幡商工会議所)

(評価)

近江八幡は、100年以上前に英語教師として来日し活躍した建築家「ヴォーリズ」の故郷である。彼のサインには丸の真ん中に点があって世界の中心は自分の住んでいる町近江八幡という隠喩である。これにちなんで、この応募テーマの名称がつけられ、ヴォーリズという地域固有の人材の思想・歴史を人づくりに活かして行こうとする切れ味のいいコンセプトでアピールしようとした点は評価したい。さらに、市民側では近江八幡商工会議所も主導的に参加して進めようという点で実現性に期待が持てる。

一方、思想が前面に出たために、課題が何なのか、その課題に対して「世界の中心で学ぶ」という思想が対応できているかという説明ストーリーの流れが伝わりにくかった面がある。さらに磨きをかけられ、近江八幡からの骨太の人材輩出につながることを期待している。

(アドバイス)

### (1) 近江八幡の魅力度アップと定住対策のためのトライ＆エラー

このアイデアの出発点である、近江八幡市の課題として提示された「近江八幡市への移住に興味や関心を持つ人をどのように拡大するか、また、その人たちをいかにして実際の移住に結びつけるかについて検討する必要がある」に応えていく必要があります。

今年度夏から「夏休み寺子屋教室」を開始する計画と聞いていますが、この事業が近江八幡の魅力度アップの看板事業になり定住対策にもつながっていくにはどのような道筋となるのか、長期的な視点で方向性をまとめてその中で「夏休み寺子屋教室」を位置づけて、トライ＆エラーを繰り返して、良いものに仕上げたいと思います。いずれにせよ、本アイデアが、子どもの自主独立精神養成を目的にするのか、移住促進を目的にするのか観光促進を目的にするのか、最終的なビジョンとそのためのゴールとどこから手がけるのかの見取り図と時間軸を関係者で明確に合意して進められることがよい。

### (2) 夏休み寺子屋教室の人気度アップ対策

アイデアでは小学生を対象に、近江八幡ゆかりのヴォーリズや近江商人たちの自主独立精神学習、琵琶湖の自然環境体験、伝統的な町並み探索をする由ですが、小学生を対象に参加希望者を募る場合に実際は親が教室に子供を入れるかどうかの判断をされると思われますので、親にとって魅力がないと集客しにくいのではないのでしょうか。このため、①まず親の参加も認めるものか、親は認めないものなのか、かりに後者だとすれば親が安心できる後見人体制やこの場合の親にとっての魅力などが必要でしょう。②親の参加を認める認めないにかかわらず、親からも魅力的に感じる子供の自主独立精神醸成の学習方法の開発が必要ではないのでしょうか。③親の参加も認めるとすれば、(イ) 引率の親向けにも近江八幡にゆくゆくは住んでみたいと感じさせる魅力の発掘とそのプログラムの開発、(ロ) 親子と一緒に学ぶ自主独立精神や自然環境などの学習プログラム開発が望まれます。

### (3) 寺子屋教室の教育内容の開発

以上のうち、子供の自主独立精神醸成の学習方法の開発（歴史人物学習を出発点として今の子供の環境に合わせた学習方法の開発）と親の参加を認めた場合の親子と一緒に学ぶ学習プログラム開発、については、外部招聘講師の授業にも工夫がいるでしょうし、協力先のヴォーリズ学園、八幡商業

高等学校、近江八幡市教育委員会・政策推進課、立命館大学佐藤ゼミなどと協力して、今年度は一部試行、次年度以降本格実施といった進め方で独自のカリキュラムを編み出されてみてはと思います。その際に、応募された COG の考え方の適用もあると思います。すなわち、子どもたちに近江八幡の地域課題を念頭に、その解決策を検討してもらった実践教室です。将来的には、ヴォーリズ学園、八幡商業高等学校自身の魅力強化にもつながっていく工夫をされるといいかと思います。